

今月の

用語

隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【プレアボイド】

英 なし

略 なし

【用語の解説】

プレアボイドとは、薬剤師が薬物療法に直接関与し、薬学的患者ケアを実践して患者の不利益を回避あるいは軽減した事例のことであり、“be PREpared to AVOID the adverse reaction of drugs”から創られた造語である。日本病院薬剤師会によって命名提唱され、平成11年から事例報告が収集されている。

医薬品は、疾病を治療したり症状を改善したりすることにより、患者のQOL向上や利益をもたらすことが期待されているが、その一方で、薬物有害反応（広義の副作用、Adverse drug reactions：ADR）が発現し、患者に健康被害を及ぼすことがある。薬剤師として、医薬品の適正使用推進および医薬品を使用した患者の医療安全管理は重要な使命の一つである。プレアボイドは、薬剤師が薬歴管理、服薬指導、TDM（Therapeutic Drug Monitoring）などの薬学的患者ケアを通じて、医薬品の副作用や相互作用を回避あるいは軽減した、という職能としての取り組みの結果である。

日本病院薬剤師会の報告によると、平成24年度のプレアボイド報告件数は24,331件であり、その優良事例は日本病院薬剤師会のホームページ（<http://www.jshp.or.jp/>）に掲載されている。

回避または軽減した不利益の内容は副作用や相互作用だけでなく、重複投与、禁忌、過量投与、過少投与、ノンコンプライアンスなど多岐に渡っている。こうした患者不利益の回避は、薬物療法の安全性向上、患者のQOL向上をもたらすだけでなく、医療費の削減にもつながる。また、その事例を収集し解析することは、優良な薬学的患者ケア情報の共有化や効率的な薬学的患者ケア手法といった新たな医療薬学情報の創出につながるものである。

【参考文献】

日本病院薬剤師会編. プレアボイド—薬学的患者ケアの実践とその成果—1. 東京：じほう；2003

（国立病院機構東京医療センター 薬剤科 薬剤師 安藤 菜甫子）
本誌134pに記載